

Life is Art
森山未来

Inspiring Talk
福岡に住みながら、
音楽をつくり、
ダンスを踊るといふこと。

愛でたし伝統文化
博多張子

VOL. 68
2015
WINTER



Contents

編集：下村萌
デザイン：松尾紀之、川上幸
写真：富永亜紀子(P4-6)
印刷：福博総合印刷株式会社
©(公財)福岡市文化芸術振興財団

本誌内容の無断転載、
複写はご遠慮下さい。

Life is Art	03	森山未来
Inspiring Talk	04	福岡に住みながら、音楽をつくり、ダンスを踊るとのこと 高橋英明 × 古家優里
九州戯曲賞 × wa	07	「十八歳、パンツに勝負を挑む」河野ミチユキ
愛でたし伝統文化	08	博多張子 三浦隆
Welcome to Artlier	09	アトリエ ラウンジ・コンサート
福釜芸術放談	09	日韓プロジェクトも「いじって」
Pick up Creator	10	建築家 宗像友昭
Art Trip in 筑後	11	九州芸文館 ほか
Art Event Clips	12	福岡市のアートイベント情報
FFAC information	12	財団からのお知らせ
FFAC レポート	14	福岡・釜山 ^{ダ・デン・ダ} だ・댄・Da ダンスプロジェクト
読者プレゼント	15	
おしゃべりな学芸員	15	福岡市美術館 正路佐知子

Cover Artist



長浦ちえ

水引デザイナー
Chie Nagaura

☎ <http://tiers.jp/>

福岡県生まれ。武蔵野美術大学卒業。2004～2005年にかけてパリに滞在。水引を使ったアートワークの制作活動を展開する。帰国後、MARK'Sのご祝儀袋『フジ』のデザインを手掛けるなど水引デザイナーとして活動。2013年より自身のブランド【TIER(タイヤー)】を立ち上げる。伝統にロックやポップを加えた、オリジナルなデザインにも定評がある。現在、プロダクトデザインのほか、企業とのコラボレーション商品やイベントのアートディレクション、雑誌やポスターのアートワークなど幅広く活躍中。2014年12月、2冊目の著書となる『手軽につくれる水引アレンジ BOOK2』(エクスマレッジ刊)を発売。



Q
水引との
出会いは？

A
偶然ですね。仕事を探していて出会ったのがきっかけですが、その後のパリでの経験が原点になっています。改めて自分は日本人なんだと感じ、水引に想いを込める意味を再認識しました。

Q
水引を使う
理由は？

A
色や輝きなど水引には素材としてのおもしろさがあると思います。個性のある水引をどう活かすか、どう表現していくかという所が、自分の肌に合っていると感じています。

Q
作品制作のこだわりは
ありますか？

A
基本的には色の意味や配置など、水引の伝統的なルールに則って制作しています。それに加えて、自分なりに時代を捉えてやっています。水引の世界で、どこまで新しさを打ち出せるかの線引きを楽しみながら制作しています。

Q
今後の制作や
チャレンジしたいことは？

A
ひとつはこれまでの日本の習わしを再認識して今の暮らしに寄り添う取組みをする事。もうひとつは他分野とのコラボレーションによる、新しい水引の可能性を世界に向けて発信していくことです。



Life is Art

森山未来

俳優・ダンサーなどの「表現者」からさらに一歩踏み込んで、企画や振付もされる森山未来さん。舞台をつくる視点からのお話を伺いました。



大植真太郎、森山未来、平原慎太郎、3人のダンサーが、言葉を交わし、身体をぶつけ合い、汗と笑いとチョークにまみれたフィジカル・パフォーマンス、これが『談ス』。九州地区では、12/12(土)~13(日)北九州芸術劇場、3/26(土)アクロス福岡、3/27(日)大分コンパイルホール、3/29(火)国立劇場おきなわにて、上演致します。詳細は、公式サイト(dansu2016.com)をご確認ください。

「振付をする」というと、いわゆる「ダンサー」と呼ばれる面々に事細かく振りをつけていくというイメージを持つかもしれませんが、実際僕が考えている「クリエイション」というのは、そこに関わる全ての人が「Co-Creator」であり、振付師から命令のように下された指示を義務のように体現するのではなく、その場にいる全員から提案される様々なアイデアや身体を元に、最終的な演出を構築していくという、そういったイメージを持つています。なので、例えば自身が出演する「死刑執行中脱獄進行中」という舞台ではその意味合いを現場にいる人たちに共有してもらいたく「共同振付」という名前をあえてもらいました。

「Judas, Christ with Soy」というパフォーマンス作品の企画をした時も、自分がこんなことをやりたい、という気持ちを純粹に形にするために一番合理的な方法をとっただけのことで、裏方に回りたいという気持ちは実際ありません。基本的には僕はただパフォーマンスでいたいと思っています。

03 演者やスタッフとコミュニケーションを図りながら作品をつくる中で、作り手として、森山さんが気を付けていることは？
現場の流れをできるだけ止めないこと、かな。
もちろん自分ではない他人の価値観と関わっていくのだから、うまくいかないことだって時にはあります。

ただ、現場をスムーズに回すため、その日の収穫をその場の全員で分かち合うためにはある種の「ゴール」みたいなものはあってもいいのではないかと思うのです。それが正解か否かは問題ではなく、どういった時間を過ごせたのかを大事にする、ダイアログを共有していくことの重要さは常に感じています。

1 拠点である東京以外の都市で公演する際に、気持ちの上で違いはありますか？
まもなく始まる北九州公演に向けての意気込みを教えてください。

まず、東京が拠点だと思ったことはありません。
高校を卒業して上京する前から東京と地元(兵庫県)を仕事で行き来していたからこそ感じていたのかもしれませんが、上京する際に「あくまで仕事のために東京に行くんだ」と自分に言い聞かせていた記憶があります。
何故こういった気持ちを持ったのだらうと考えると、神戸で出会った表現者達と東京で活動している表現者達にたいした違いを感じなかった、むしろ地元の方にはビジネスには向かないけれど個性豊かなアーティストが多く、パフォーマンスはより濃い、と感じることの方が多かったというのがあるかもしれません。

全ての場所にはそれぞれの文化、特色があり、東京という場所もそれらの一つに過ぎません。どれも良い、悪いと言うわけではなく、それが各々の個性なのだから感じますし、それは世界中のどんな場所においても同じことが言えます。

なので、北九州でクリエイションをすることによって起こる変化というのは、あくまで北九州にいるからこそ受ける影響であって、他のどんな場所でも起こりうるものではありません。その個性に出逢えることを心から楽しみにしています。
舞台のおはぎを食べながらどんな「談ス」が生まれるのか、今から待ち遠しいです。

1984年兵庫県生まれ。数々の映画・ドラマに出演する一方、幼少時からダンス経験を活かし「テツカ TeZUKA」「ヘドウィグ・アンド・アングリーインチ」「100万回生きたね」「PULPO」等の舞台でも活躍。文化庁文化交流使として13年秋より1年間を主にイスラエルに滞在、インバル・ピント&アブシャロム・ポラックダンスカンパニーを拠点に活動。近年の舞台作品としては、「Judas, Christ with Soy」(企画・出演)、「死刑執行中脱獄進行中」(主演・共同振付)など



福岡に住みながら、音楽をつくり、ダンスを踊るといふこと。

日本はもちろん世界的にも活躍中の

二人のアーティスト、音楽家の高橋英明さん、

振付家・ダンサーの古家優里さんは

近年、生活の拠点を

東京から福岡に移しました。

いま地方に住みながら、

アート活動をするということについて、

お話を聞きました。



音楽家

高橋英明

さん



ングだったし、プロジェクト大山のメンバーには、福岡出身者も多くて。「じゃあ、移っちゃえ」と。

高橋▼僕の周りには福岡に移ってきたアーティストも多くて、みんな軽々と移動しながら仕事をしている。だからどうにかならんじゃないかと。今では一週間ごとに福岡と東京を行き来する生活です。

古家▼私は子どもが小さいということもあって、そこまで頻繁ではないけど、月に1〜2回かな。

高橋▼ちょうど福岡に移住してきた時、見えない放射能を意識させる試みで、LEDが組み込まれたアクリルパイプと音を使った「on the ground」という作品をつくっていたんです。それを持って九州をまわった時に、「九州とアート」が接する場面に初めて遭遇したのですが、東京とはずいぶん違っておもしろかった。九州の人は、純粋に作品を見てくれる。分からなければ、「分からない」と率直に言われる。東京の人は、背伸びをしがちで、知識を元に感想を言われることも多いので。

古家▼私の場合は、そもそも東京でも「コンテンポラリーダンスって

なぜ福岡に移住したのか？

高橋▼僕は東日本大震災がきっかけでした。「子どもの小学校の学年が変わる前に、九州に移り住もう」と急遽決めました。東京との行き来も多くなるだろうと予想して、交通の便がいい福岡に。僕は東京出身で、一度ライブに来ただけで全く土地勘もなかったのですが、少ない情報を頼りに福岡市内を見て回って「大濠公園の近くがよさそう」と家族と話して、直感的にその近くに居を構えました。正直、後先考えない衝動的な移住でした。

古家▼私は2013年に妊娠をして子どもを産むことになった時、原発のことを考えました。ちょうど相方が福岡で働き始めたタイミ

何？」と言われることが多いので、もちろん踊る場所や見られる機会は東京の方が多いけど、東京と福岡の違いはあまり感じないかもしません。

西洋的なものとアジア的なもの

高橋▼古家さんは、なぜコンテンポラリーダンスを始めたんですか？

古家▼小さい頃からクラシックバレエを習っていましたが、手足が長くて美しい西洋人へのコンプレックスが、常にありました。大学に入って初めてバレエ以外のダンスに触れた時、すごく踊れる先輩たちがグチャグチャに崩して踊る姿を目の当たりにして、自分の中のダンス観が一度崩壊しちゃって。「じゃあ自分はどんなダンスをしていくんだろう？」と考えた時に、自然とアジア人の体つき、土着的な大地に向かう動き、女性らしいブリブリとした体の曲線を表現したいと思うようになりました。

高橋▼そういうところに魅力を感じるの、九州にルーツがあるから？

東京だけで育つと、もつとスタイリッシュな方向に向かうような気もするのだけど。

古家▼無意識にはあるかもしれませんがね。

高橋▼音楽もそう。クラシック音楽って、「よいもの」として日本に入ってきて、自分なりのものさしがないまま今に至っている部分もあると思う。

以前、バリ島にガムランを研究に行くチームに同行させてもらったことがあります。言葉も全く通じない状況で、毎日毎日ガムランを



古家優里

さん

振付家・ダンサー
プロジェクト大山主宰

聞いていると、西洋音楽とは全然違うチューニングが、だんだん心地良くなってくるんです。すると日本に帰って来てしばらくは、12音階でできたものが人工的すぎて聞けなくなっちゃった。

古家▼まさにそういうものに憧れます！生活から自然と湧き立つようなダンスを踊りたい。自分の身体を活かして、どこかの民族のように踊りたい。

高橋▼プロジェクト大山の、あの青いコスチュームには理由があるんですか？

古家▼ああ見えて、個性を消せるんですよ(笑)。髪型が違うから違って見えるのではなく、動きが違うから、違って見える。

高橋▼なるほどね。逆に装飾でごまかされにくくなりますね。個々の個性は許容していくんですか？

古家▼もちろん同じ動きで空気を合わせていくということはやります。けれど、私がいくら振り付けたって、やればやるほど「その人色」が出てくるんです。そういうものは魅力としてみせていきたい。

福岡に住みながらクリエイトする方法

古家▼曲作りは東京で？それとも福岡で？

高橋▼東京も福岡も同じ環境にして、どちらでも曲作りできるようにしています。変化があるかと言えば、作る時の精神状態の在り方は変わったかもしれない。東京が息苦しかったわけではないけれど、こっちにいるとリラックスして深呼吸ができていくなと気づくことがある。

古家▼ダンスは反対に、身体がないと始まらないところがあるから

なあ。来年プロジェクト大山の新作をやろうと考えているのですが、良い方法を考えているところです。既にできている作品だったら、口で伝えて…ということもできるかもしれませんが、新しい動きや細かなニュアンスは直接じゃないと伝わらない。私が踊っているのを動画で撮って、東京で進めておいてもらって、私が行った時にリハをする、みたいな形かなあ。これからの課題ですね。

高橋▼家賃安いし、みんな福岡に引っ越してきちゃえば（笑）。

古家▼本当に、それができたらいいのに！

福岡にある「ハレ」と「ケ」

高橋▼確かに拠点が変わったことで、これまでとは違うやり方での作品づくりは、もっと模索したいですね。夏休みに福岡で子どもたちと1週間かけてやった「アーティストとつくるダンス編&えんげき編」は、そのヒントをくれるようなワークショップでした。

古家▼どんな感じでしたか？

高橋▼一つのお話を元に、子どもたちが芝居とダンスをつくって、僕はその橋渡しになるような形で音楽を作りました。こういう音楽だけに限らない、いろんな入口を持つ作品の形は、深められそうだなと思いました。子どもの段階からアートに触れる活動は、福



岡でもっとやっていきたい。その時感じたんだけど、子どもたちみんな、すごく楽しそうに踊るよね。

古家▼そうそう！結構みんな踊るの好きなんじゃないって思いますよね。お祭りなんかでも、滝のような汗をかきながら延々と踊っているのを見ると。

高橋▼地方に行くときまだまだそういう祭りが残っていて、徳島の阿波踊りも年中練習しているし、島根にも「神楽馬鹿」という言葉があるくらい、エネルギーを費やしている。

古家▼お祭りって、やっぱりタガを外して楽しむハレの日なのかな。

高橋▼あー、でも確かに、東京ではハレの良さが分からないかもしれない。いろんなイベントが毎日あまりにたくさん行われていて、ずっとハレの状態が続いているから。そういう意味では、福岡にはまだハレとケの感覚は残っているように思うので、ひとつの公演が持つ意味は大きいかもしれませんね。古家さんは、これからやってみたいことはありますか？

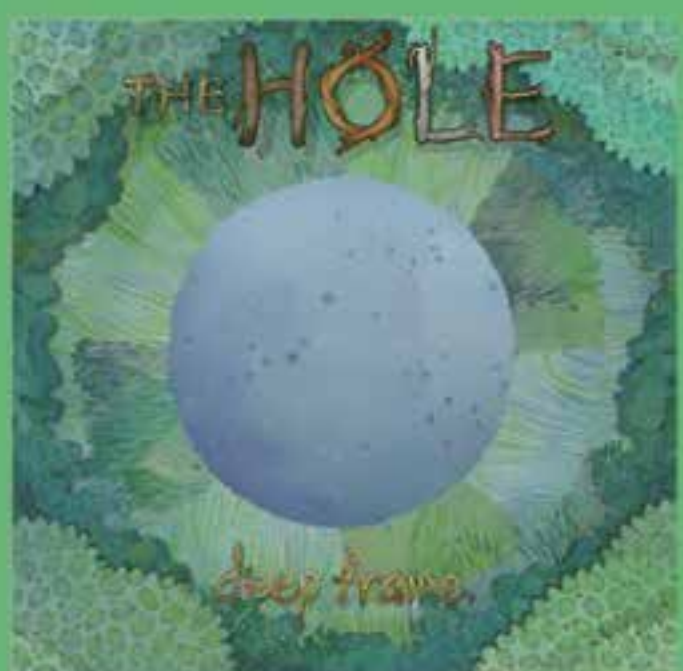
古家▼自分に子どもが生まれたこともあって、子どもに向けたアプローチはやってみたい。もうひとつ、劇場でやる踊り以外にも、こちらからもっと外に出て行って、街の中のどんな人の目にも入る場所でする機会を作っていきたいですね。

高橋▼それ、ぜひ福岡でやってほしいですね。



高橋英明

東京生まれ。音楽家。mjuc、deep frame、natureblunt 名義で多数のアルバムリリースがあるほか、近年はチームラボのアート作品の音楽も多数手がける。ミラノ万博日本館の音楽も制作。



◎3.11をテーマに作られた deep frame のCDと絵本「The Hole」発売中。



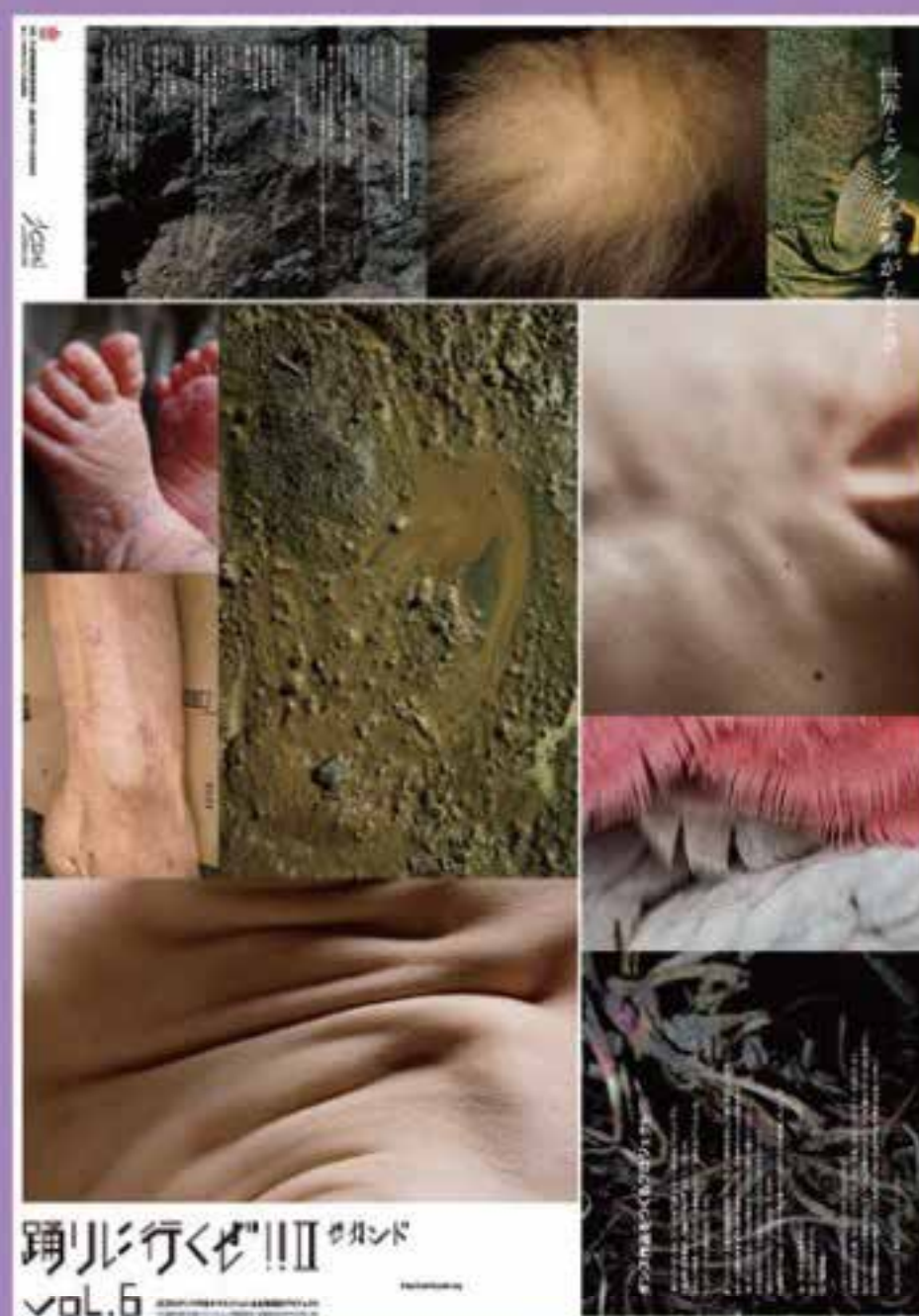
◎今冬リリース予定の『攻殻機動隊 新劇場版 Virtual Reality Diver』音楽を担当。

◎2015年11月27日から始まる大分駅イルミネーションの音楽を手がけている。(1/31まで)



古家優里

熊本県出身。振付家、ダンサー。お茶の水女子大学舞踊教育学コース卒業。大学同級生と立ち上げたダンスグループ「プロジェクト大山」主宰。公演活動の他、NHK Eテレ「みいつけた!」番組内「オフロスキー」楽曲への振付出演、長塚圭史演出「ガラスの動物園」振付出演などがある。



◎JCDN 『踊りに行くぜ!! II vol.6』
日時：2016年3月6日17:00
場所：イムズホール
「踊りに行くぜ!!」II(セカンド)
HP▷http://odori2.jcdn.org
出演：古家優里ほか



九州戯曲賞とは、

2009年に創設された九州を拠点とする劇作家による作品を顕彰する賞。

九州にゆかりの深い著名な劇作家による審査を経て、毎年夏に大賞が発表されます。

2015年大賞を受賞された河野ミチユキさんによる読み切りエッセイ。

「十八歳、パンツに勝負を挑む」

4月生まれの私は、18歳といえば高校3年生ということになる。赤い茶髪でメガネ。これから何者にもなれるような希望と未だ何者でもない存在であることに咆哮する、男子校に通う少年だった。

我が高校に芸術鑑賞の名目で舞台作品がやってきた。カルメンのオペレッタの抜粋だったのだろうか全く内容を覚えてない。しかし強烈に印象に残っている。寮生活の厳しい規律の中で野田秀樹の著書を読み漁ってはそれらがライブではどうやって現実になるのかを妄想する日々を送る高校生の僕である。まだ体験した事のない生の舞台に触れられることに多少の興奮も覚えながら、僕らは体育館に集められた。体育座りで腰を下ろした僕に隣の友人が「お前、なんか演劇に興味あるって言ってたな、観られてよかったな」というようなことを言った。

舞台が幕を開けた。ピアノの伴奏に合わせて何人かが入れ替わり歌曲を披露していく。その熱唱に反比例して徐々に客席の温度が下降する。1曲終わるたびにざわめき(つまり私語)は大きくなる。僕らの集中力は3曲くらいを堪能した辺りでとうに切れ始めていたのだった。隣の友人は退屈の表情をこちらに向けた。僕も肩をすくめて応えた。それからはひどく永い時間に感じた。あいにく僕らはその素晴らしかったであろう舞台の楽しみ方を知らなかったのだ。

うなだれ気味でいた僕の耳に突如、歓声が飛び込んでくる。顔を上げると舞台上で若い女性が踊っていて、そのスカートが風に舞う度に歓声が上がると。衣装にそぐわない派手な下着だったように思い出すのだが、とにかくそれからの客席は彼女が舞台に出てくる度に沸き、最後のカーテンコールは拍手の渦に飲み込まれたのである。周りを見渡すと数十人は立ち上がって手を叩くのもいる。名前は存じ上げない女優さんのパンチラに、男子校の生徒達の心は全て掴まれたのだった。僕は啞然とした。

大勢の心がいつぺんに動く瞬間。観客の目が見開き、顔が紅潮し、姿勢が前のめりになる瞬間が大好きだ。あの体育館で、冷たく動かなかった山がたった一枚のパンツによって動いた。その衝撃的な体験がずっと忘れられない。僕は当初から変わらず俳優達に気高くセクシーであることを望んでいるが、それは翻って自分の演劇の堅牢性を問う姿勢だ。パンツに負けない演劇。パンツに勝負を挑み続ける日々だと言っても過言ではない。いや少しだけ言い過ぎたかもしれない。

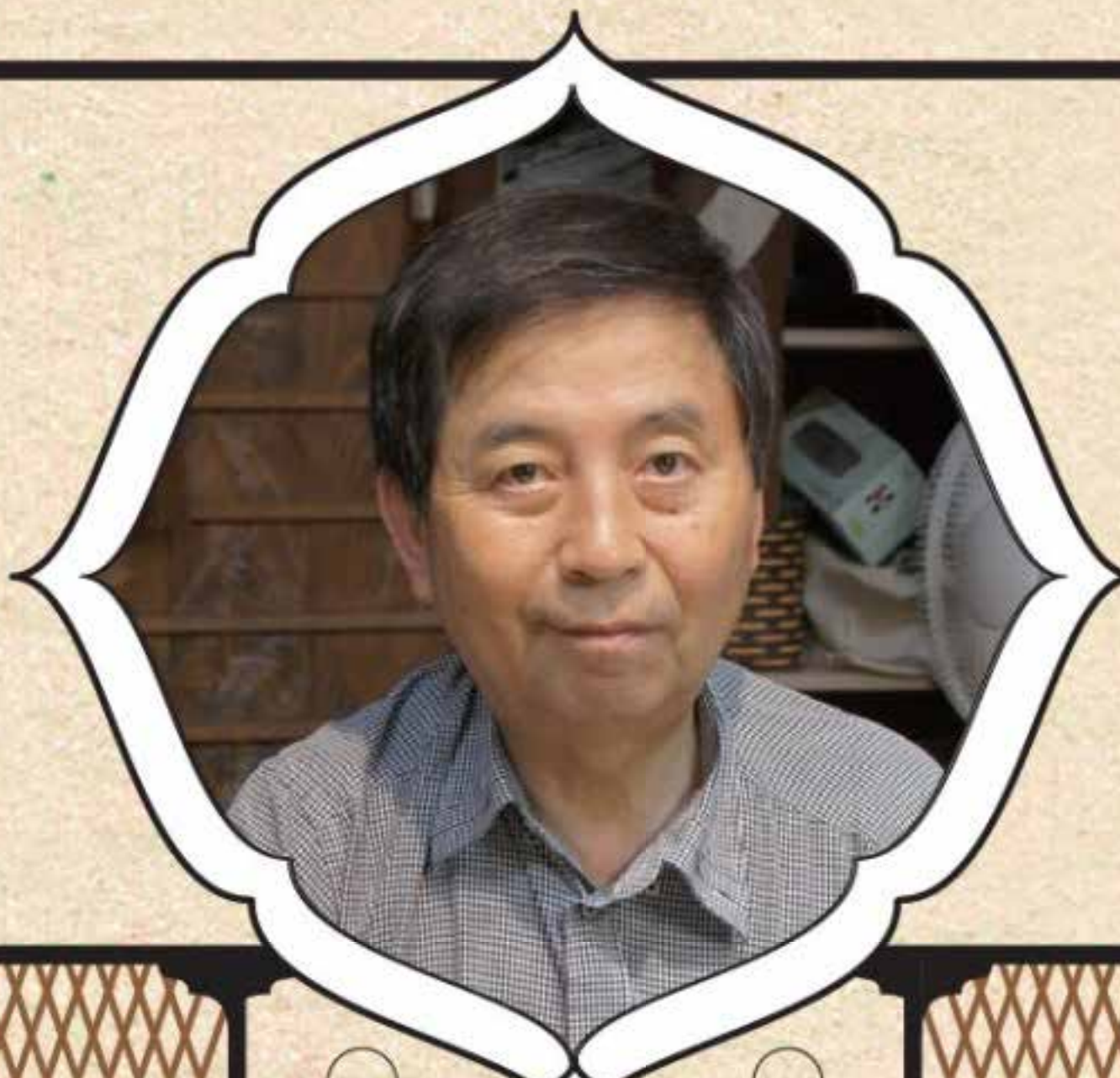
河野ミチユキ

熊本県牛深市(現・天草市)生まれ。劇作家・演出家。ゼロソー代表。熊本演劇人協議会副会長。2000年劇団0相(現・ゼロソー)を旗揚げ。第2回公演以降、ゼロソー公演の作・演出を手掛けている。2015年「チッタチッタの抜け殻を満たして、と僕ら」で九州戯曲賞大賞受賞。12月にゼロソー「父と暮せば」(作・井上ひさし)@花習舎熊本、2016年3月にゼロソー新作「竜宮都市ゴッヘイ」@熊本市男女共同参画センターはあもにいを予定。



「博多張子」 基礎知識

極上の手漉きの和紙や新聞紙をフノリで一枚一枚、型に貼り付けて乾かし、手描きで彩色する手作りの民芸品。大阪から博多に伝わり、子どもの玩具として、また十日恵比寿や博多どんたくの飾りとして博多の町には欠かせない伝統工芸のひとつ。



三浦隆 さん(65)

みうらたかし
職人歴足かけ50年、五代目博多張子職人。サラリーマンを退職後、母から受け継いだ博多張子に専念して活動を続ける。毎週火曜日には「博多町家」ふるさと館で博多張子の実演・体験を指導。



提供:福岡市

愛でたし伝統文化

第六回 博多張子

十日恵比寿や博多どんたくなど、博多の町を彩る博多張子。その博多張子を作っているのは、現在では博多に二軒、糸島に一軒。昔はどの商人も店に飾っていた福笹(ふくざさ)も。今ではいくつかの料亭にあるのみ。その福笹に付けられた1メートル近くもある鯛の張子は迫力満点だ。希少な博多張子を作り続けている、三浦隆さんを訪ねた。

以前はサラリーマンをしていたという三浦隆さん。博多張子の後を継ぐときには決心が要ったのでは?と尋ねると「そんなもんじゃない。小さい頃から家でやっとなるからね。技術は身についていた。」と話す。

三浦さんのご先祖である中尾たまさんが博多張子の初代。張子の技術は、当たり前のこととして家の中で自然と身に

ついていった。博多にもう一軒ある博多張子の家も親戚だ。博多張子で一番難しいのは和紙を貼る作業。八女の手漉き和紙を一枚ずつ貼っていく。空気が入らないように、指で丁寧に一枚ずつなぞるようにして貼っていく。貼りあわせていくので必ずできる皺のひとつひとつが味となり、皺が博多張子の特徴のひとつでもある。

「昔は母が貼る作業をして、私は仕上げや絵付けをやっていたんですよ。いつもその役割分担でやっていたのが、母が亡くなってからは全て一人。人にはどうしても得手不得手つてあるでしょ、トータルでやるっていうのが、できそうでなかなか難しい。傍で見ているように簡単じゃないんですよ。」

伝統工芸につきもの後継者について尋ねると「おまんま、食べるか食えんかの問題なんですよ。」と一言。「きついけど、これいい仕事よ、とはなかなか言いづらい。息子達にはやらせてないもんねえ。私の頃とはえらい違い。」伝統文化の厳しい現実だ。だが、新しい活動にも目を向けている三浦さん。街をあげて伝統文化を活かしていく動きがあるといい。海外からの観光客を対象にした

博多張子の絵付け体験、といった新しい取り組みをしていきたいと語る。「福岡に来て美味しいものを食べるだけじゃない、文化的にも魅力ある街に底上げしていかないと。体験を

通して自分はヘタやなあとか、これは上手くいった!とかさ、自分の手で作ったら思うでしょ。愛着も湧くしね。博多張子を体験してもらって、ずっと心に残る体験をつくりたいね。」





文化芸術情報館 アートリエ

文化芸術の普及振興のため、全国各地の情報を収集、発信する施設です。イベント情報の提供やチケット販売を行うほか、アートイベントを開催しています。お気軽にお立ち寄りください。

〒812-0027 福岡市博多区下川端町 3-1
リバレインセンタービル 7F
(福岡アジア美術館内)
営業時間▷10:00～20:00
(チケット販売・わの会入会受付は19:30まで)
休館日▷毎週水曜日
(水曜日が祝休日の場合はその翌平日)、
12月26日～1月1日
※福岡アジア美術館の休館日に準じます。
お問合せ▷
Tel:092-281-0081 Fax:092-281-0117

優待割引チケットの販売も行っています。
発売情報はメルマガでチェック!
メルマガ登録はこちら



Welcome to Artlier

アートリエ ラウンジ・コンサート vol.9

指揮者や音楽監督として世界で活躍する大山平一郎氏が
コーディネートする室内楽の無料コンサート。
福岡アジア美術館で開催される特別展(P.15参照)にちなんで、
大山氏と親交のある韓国人ヴィオラ奏者も友情出演!

大山 平一郎
ヴィオラ



これまでにロサンゼルス・フィルハーモニック首席ヴィオラ奏者・副指揮者、九州交響楽団常任指揮者、大阪交響楽団音楽顧問・首席指揮者、ながさき音楽祭音楽監督などを歴任。2003年までカリフォルニア大学教授。現在、サンタバーバラ室内管弦楽団音楽監督兼常任指揮者、CHANEL Pygmalion Days 室内楽シリーズ アーティスティック・ディレクター、Music Dialogue 代表。

チェ ウンシク
ヴィオラ



指揮者チョン・ミョンフンと当時ロサンゼルス・フィルハーモニック首席ヴィオラ奏者であった大山平一郎に才能を認められ、全額奨学金にてクロスローズ芸術科学高等学校で学ぶ。ポロミオ弦楽四重奏団創設メンバー。世界各地の室内楽音楽祭に数多く出演。現在、ソウル国立大学教授、韓国・ヴィヴァーチェ音楽祭音楽監督。

- プログラム ▶ ファンメル/ヴィオラ 2本とチェロの為のトリオ ト長調
ブラームス/弦楽五重奏第2番 ト長調 作品111
- 出演 ▶ 大山 佳織(ヴァイオリン)・緒方 愛子(ヴァイオリン)・チェ ウンシク(ヴィオラ)・大山 平一郎(ヴィオラ)・長谷川 彰子(チェロ)
- 日時 ▶ 2016年1月18日(月) 18:00～(トーク+ミニコンサート)
- 会場 ▶ 福岡アジア美術館7階 彫刻ラウンジ
- 料金 ▶ 無料(事前申込不要)

※やむを得ない事情により、出演者・プログラムが変更となる場合がございます。

年始まった福岡と韓国釜山地域の演劇交流プロジェクト「HANAROPROJECT」。昨年は日本の戯曲を韓国の劇団が上演し、韓国の戯曲を日本の劇団が上演した。今年は韓国の短編戯曲を日韓それぞれの演出家、俳優で上演しあうユニークな企画だった。過去2回について関係者の話を総合すると…。

福釜芸術放談

14

日韓プロジェクトも「いじって」

「話題性もあり、通常の演劇公演よりも新聞などにはよく取り上げられたが、集客面では苦戦した。ただし、アンケートなどをみる限りでは観客の評価はまずまずである」

このプロジェクトに限らず、日韓交流の企画はその意義を認める人は少なくないが、両国の政治的な関係の冷え込みも影響し、もう一つ一般にまで広く浸透しない傾向がある。

過去2回の実績からは大きな集客を見通すことは難しく、予算面では公的な助成金頼みな面があることは否めない。加えて、同プロジェクトは釜山市出身の演出家・俳優の金世一さんをはじめ、参加者は俳優などプレイヤーが中心で、裏方となる制作面が弱いのが課題だ。これは美術系の福釜プロジェクトも共通の課題だろう。美術系も大抵、別の創作プロジェクトを動かしながら並行して福釜プロジェクトを進めており、実は福釜プロジェクト専任のスタッフがいるわけではない。

ところで、この機関誌「M」を発行している福岡市文化芸術振興財団は本年度、アートマネージャーの人材育成や発掘などを目的としたアートマネジメント(AM)セミナーを実施中と聞く。このセミナーに限らず、近年福岡市界隈でもよくこのAMという言葉が耳にする機会は随分と増えた。ただ、企業のマネジメントが結局のところ、企業を実際に経営してみないことにはよく分からないように、AMもアートの現場で実践を積まないことには始まらない側面があると思う。

ということ、AMに興味がある若い人たちの実践経験を積む場として、福釜関係の様々なプロジェクトの門戸を開いてはどうだろうか。アーティストや俳優などプレイヤーの方は地域だけの活動では飽き足りなくなった百戦錬磨のつわものも多く、彼らと経験を積むことはまたとない実践の場となるはずだ。財団主催セミナーのキックオフイベントは、「いじる」を学び、考える。」との題だったが、日韓関係のプロジェクトを、若い発想でいじり倒してほしい。

内門博

西日本新聞記者。最近、ドラマ「応答せよ1997」トロッットの恋人」のAPinkウソジの釜山弁の魅力に開花。



うきはの山茶

有機栽培で丁寧に作られたお茶の販売所。古い日本家屋の一部を改修し2015年11月3日にリニューアルオープンした。※なかにわデザインオフィスとの共同設計。



ペンフォルダーファイル

福岡の文具・雑貨メーカー「ハイタイド」から発売されたクリアファイルとペンフォルダーが一体になった文具。



筒井時正玩具花火製造所

2014年6月に完成した日本に三社しかない国産線香花火の製造所のショップ&ギャラリー。※なかにわデザインオフィスとの共同設計。



Pick up Creator

福岡を拠点に活躍する若手建築家、宗像友昭さん。独立して4年目を迎え、建築以外にも文具の商品開発など活躍の場を広げつつある。建築に真摯に向き合い、建築を心底楽しむクリエイター。今後に気になる存在だ。



宗像友昭

むねかたともあき 建築家。2012年、design office TERMINAL 一級建築士事務所を設立。建築にとどまらず、プロダクトなど幅広いジャンルで活躍。筒井時正玩具花火製造所でJCDデザインワード2015銀賞/新人賞/木田隆子賞を受賞。
<http://tomoaki-munekata.com/>

独立までの経緯は？

建築家としてのスタートは、福岡の建築事務所で文字通り「弟子」として3年間ひたすら建築の基礎を叩き込まれました。その時期は朝から晩まで建築漬けの毎日でしたが、この世界に足を踏み入れた、という実感が嬉しくて辛いとは思いませんでした。それから2年がかりで一級建築士の資格を取得し、建築事務所を経験を経て、念願だった自分の事務所を立ち上げました。

ワークショップや撮影に活用されています。プロジェクトメンバーにも恵まれ、さらにたくさんの方の賞をいただけで思い入れのある作品になりました。

設計する上での自分らしさは？

お客さんの求めるものによって僕は変わっていくだろうと思います。設計士は「夢に形を与える職業」と思っていて、自分のカラーを押し出すというより、お客さんの夢に寄り添った設計をしたいです。佇まいの美しさや心地よい空間をつくるという事は常に念頭に置いています。

筒井時正玩具花火製造所について

独立して最初のプロジェクトです。敷地の問題で、1年間ほど仮の事務所運営しなければなりません。そこで、仮事務所にコンテナを使用し、1年後にそれをそのまま建物の中に入れようと。コンテナをクレーンで吊り上げて、移設するとうあまのり例のないプランができました。花火製造所ですので、日中でも花火ができる暗室を用意し、

今後の展望について教えてください。

30代に入った今、次の世代の育成ということも視野に入ってきました。まずは次世代のためになる事務所にしていくこと。それと、建築家としては、隅々まで自分の手の行き届いた建築をつくっていききたい。手間はかかりますが、細かいところにもこだわってつくるのが好きなんです。

Art Trip

in

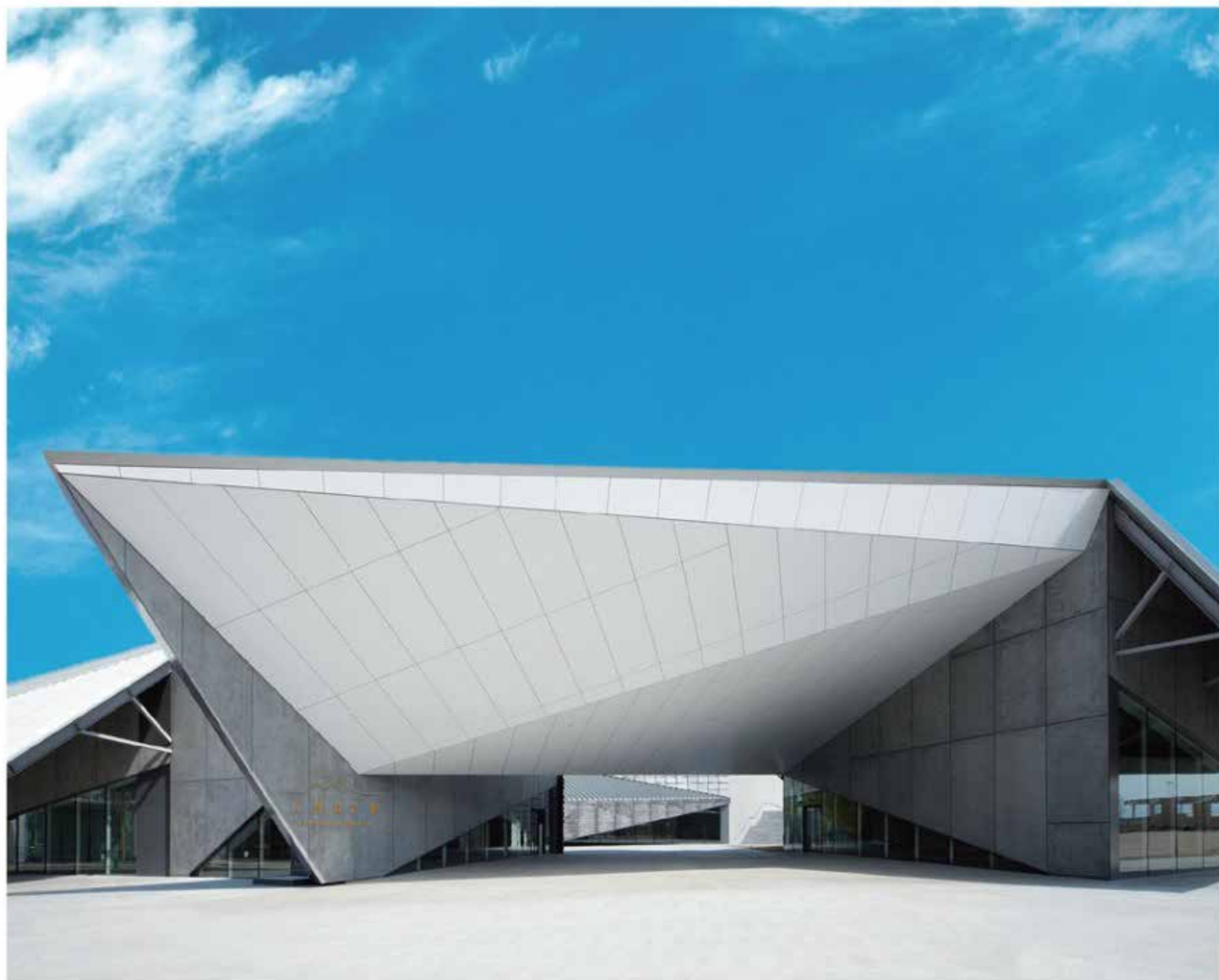
筑後

福岡から少し足を伸ばして行ける、
アートスポットやその周辺情報をご紹介します。
アートを楽しみに出かけよう!

九州芸文館

地域の特色を活かした企画展やバラエティ豊かな体験講座など、
様々な芸術文化に触れることができる交流施設。隈研吾による
建築も見どころ。

福岡県筑後市大字津島 1131 TEL◎0942-52-6435
詳しくは▷<http://www.kyushu-geibun.jp>



筑後アート往来 ~CHIKUGO ART TRAFFIC~ アーティストインレジデンス

アーティストインレジデンス滞在期間10~12月
キム・ハンナ / 武内貴子



参加アーティストによる展覧会
会期▶2015年12月2日(水)~12月23日(水・祝)
会場▶九州芸文館 教室工房1・2
入場料▶無料



ちくごアートファーム計画2015~ 筑後の環境と身体性 カラダに効くアート

参加作家▶牛嶋均、牛島智子、坂井存
会期▶2015年12月12日(土)~2016年2月7日(日)
会場▶九州芸文館 大交流室
入場料▶無料

参考作品:牛嶋均《行くブランコ》©Keiichirou Onozawa

Nanakura café

筑後の精麦会社「麦のいしばし」が
営むカフェ。特産品である大麦を使
った様々な料理を楽しめる。ベーカ
リー「麦工房 NANAKURA」も併設。

福岡県筑後市和泉 173-10
TEL◎0942-27-8825
詳しくは▷<http://www.mugibijin.co.jp/group/>



うなぎの寝床

筑後地方を中心に近隣の場と人の
魅力を発信するアンテナショップ。
2016年には徒歩10分ほどの場所
に、商品の背景にある歴史や物語、
人についてじっくり知ることのできる
スペースを開く予定。こちらも乞う
ご期待!

福岡県八女市本町 267
TEL◎0943-22-3699
詳しくは▷<http://unagino-nedoko.net/>



FFAC information

■ 第52回 福岡市民芸術祭参加者募集!

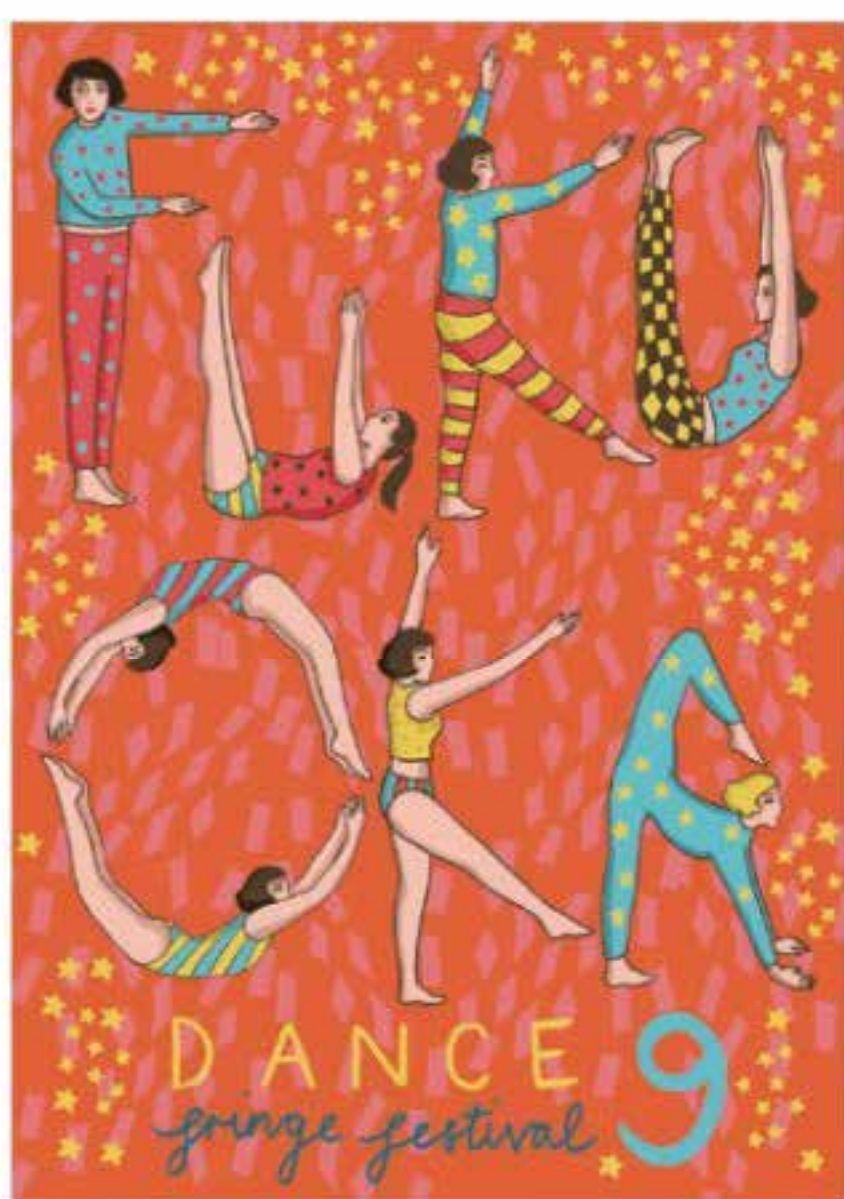
福岡市民芸術祭は、福岡市民の文化芸術活動の発表の場、身近に触れ合う場として、毎年秋に開催されている「芸術のお祭り」です。昭和38年の福岡市民会館オープンを機に、総合的な芸術祭として翌年誕生。平成28年度で53回目を迎える、本芸術祭の参加行事【一般プログラム・フォーカスプログラム】を募集いたします。1月5日(火)には、平成27年度フォーカスプログラムの事業報告会と平成28年度の募集説明会を実施します。申込予定の方は、ぜひご参加ください!!



募集期間◎平成27年12月1日(火)～平成28年2月1日(月)
申込方法◎福岡市民芸術祭公式HPより募集要項をご確認ください。▷<http://www.ffac.jp/>
<フォーカスプログラム事業報告会&募集説明会>
日時◎平成28年1月5日(火)19:00～21:00
会場◎福岡市赤煉瓦文化館会議室3
料金◎無料
申込方法◎本報告会&説明会に参加ご希望の方は、上記公式HPよりご確認の上、下記までお申し込みください。
お問い合わせ◎財団 事業課(後藤、日野)
Tel▷092-263-6265 Fax▷092-263-6259
e-mail▷geijutsusai@ffac.or.jp

■ 福岡ダンス フリンジフェスティバル ～ダンスの発火点～ vol.9

国内外の新進気鋭の振付家・ダンサーが福岡に集結し、今まさに沸騰する旬のダンスをお届けします!公演の他にも、ダンスワークショップやトークイベントも開催!



<Main Program>
日時◎2016年2月13日(土)A15:30 / B19:00
2月14日(日)C15:00 / D18:00
会場◎ぼんプラザホール
料金◎各回3,000円・学生2,500円
(当日は一般・学生共に3,500円)
1日券5,000円
(A・Bセット、C・Dセットのどちらか)
2日券8,500円
(A・B・C・Dすべて鑑賞できます)
※1日券、2日券は数量限定で前売りのみ販売。
チケット取扱い◎12月11日発売開始
公式HP、ローソンチケット(Lコード84869)、アートリエ
<Special Night Program>
日時◎2016年2月13日(土)21:30
会場◎紺屋 2023・konya-gallery
料金◎2,000円・学生1,500円(当日2,500円)
チケット取扱い◎チケットは公式HPにてご予約ください。
<関連ワークショップ>
世界的ダンサーによるスペシャルワークショップを開催!2016年2月上旬
★詳細はフリンジ公式HPをご覧ください。
d-codex.asia/fdff/
お問い合わせ◎福岡ダンスフリンジフェスティバル事務局
NPO法人コデックス
Tel▷080-5259-2577
e-mail▷fdffinfo@gmail.com

■ 舞台公演「Lifemap」

障がいのある人たちの芸術活動を通じ、社会におけるさまざまな既成の“価値”や“枠”を捉え直すことを目指す企画「Lifemap」。昨年に引き続き、今年も公募で集まった障がいのあるアーティストと共に舞台公演を制作・発表いたします。企画9年目を迎え、さらに進化したパフォーマンスアートをお見逃しなく!



撮影: Tominaga Akiko
過去の公演の様子(2014年)

日時◎2016年1月30日(土)～31日(日)
会場◎ゆめアール大橋
※詳細は決まり次第 WEBアートリエにてお知らせします。
お問い合わせ◎財団 事業課(猪股、後藤)
Tel▷092-263-6265
Fax▷092-263-6259
e-mail▷plan@ffac.or.jp



高倉健特集 第二期

2016年1月6日(水)～1月24日(日)

平成26年11月に亡くなった名優・高倉健の主演作、70年以前の作品10本を上映。上映予定作品は「森と湖のまつり」「ジャコ万と鉄」「網走番外地」「緋牡丹博徒」など。

福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ

福岡市早良区百道浜3-7-1 ☎092-852-0600
<http://www.cinela.com/>



坂東玉三郎 特別舞踊公演 中村獅童出演

2016年2月4日(木)～21日(日) ※15日(月)休演

歌舞伎舞踊の“究極の美”を追究し続ける坂東玉三郎。玉三郎演出の『船辨慶』『二人藤娘』、そして中村獅童、中村児太郎の『正札附根元草摺』の名曲三題。華麗な舞踊の世界をお楽しみに!

博多座

福岡市博多区下川端町2-1 ☎092-263-5555
<http://www.hakataza.co.jp>



アクロス・ランチタイムコンサート vol.48 釜山市立国楽管絃楽団

2016年1月22日(金) 12:00 開演

『国楽』は、韓国伝統楽器だけで編成されたオーケストラが奏でる、ヘグム(奚琴)やチャング(太鼓)などの調べをお楽しみください。演奏曲目は、チェ・ソンファンの「アリラン幻想曲」など。

アクロス福岡

アクロス福岡チケットセンター
福岡市中央区天神1-1-1 ☎092-725-9112

■ イムズパフォーミングアーツシリーズ2016 vol.1 踊りに行くぜ!! II (セカンド) vol.6

全国各地のダンス・イン・レジデンスで制作された作品が巡回するダンスプロダクション、福岡の地元作家が作品を制作・発表する地元作品。これらのプログラムから全4作品を一挙上演。ダンス界注目の『踊りに行くぜ!! II vol.6』が今年も福岡にて上演されます!



行くぜ!! II vol.6 が今年も福岡にて上演されます!

日時◎2016年3月6日(日)17:00
 会場◎イムズホール(イムズ 9F)
 料金◎一般 2,500円、学生1,500円
 (当日は各500円増し)

上演作品◎
 ダンスプロダクション▷平井優子、山崎広太
 地元作品▷緒方祐香、古家優里
 お問い合わせ◎スリーオクロック
 Tel▷092-732-1688
 e-mail▷info@3pm-net.com

■ アートリエワークショップ コマ場—コマの絵付け体験とコマ廻し

手廻しコマにアクリル絵の具で絵付けをし、コマ廻しの面白さを体験するワークショップです。コマに関するインスタレーション展示とともに、昔ながらの「コマ」の世界をお楽しみください。

講師◎牛島智子(美術作家)
 日時◎2016年3月18日(金)~19日(土)15:00-16:30
 会場◎福岡アジア美術館 彫刻ラウンジ
 (博多区下川端町3-1リパレインセンタービル7階)
 定員◎各回20人(小学生以下は保護者同伴)
 料金◎500円(材料費・保険料込)
 お問い合わせ◎財団 事業課(天達)
 Tel▷092-263-6265 e-mail▷a-event@ffac.or.jp

■ アートマネジメントセミナー連続講座報告会 「企画のスタートラインに立つ」

地域で活動するアートマネージャーの人材育成と発掘、及びそのネットワーク化を目的とし、平成15年度より開催しているアートマネジメントセミナー。「地域ならではの」をテーマに、秋から継続して開催している連続講座を経て、受講生による報告会を行います。アートマネジメントや文化芸術に興味のある人であればどなたでもご参加いただけます。



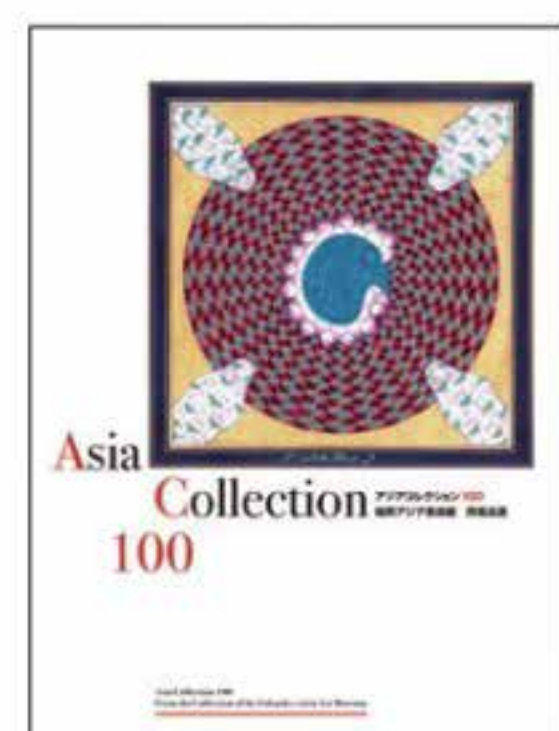
日時◎2016年2月27日(土)10:00-16:00
 会場◎福岡市赤煉瓦文化館(予定)
 ※詳細は、決まり次第 WEBアートリエにてお知らせします。
 お問い合わせ◎
 財団 事業課(猪股、後藤)
 Tel▷092-263-6300
 Fax▷092-263-6259
 e-mail▷plan@ffac.or.jp

◀キックオフイベントの様子(2015年7月)

■ 国際舞台創造支援事業「Asian Parallax」

福岡の舞台芸術シーンで日韓交流が盛んとなってきたことを受け、独自の手法で海外発信に取り組む3劇団が作品を一挙上演! さらに今回は、日本・韓国に加え、シンガポール・香港からもゲストをお招きし、舞台芸術の国際シーンに関するトークも行います。福岡とアジアの文化交流、舞台芸術作品の国際シーンにご興味のある方、この機会にぜひご来場ください。

日時◎2016年2月27日(土)~2月28日(日)
 会場◎スカラエスパシオ(福岡市中央区渡辺通4-8-28 F.TビルB2)
 ※その他詳細は、決まり次第 WEBアートリエにてお知らせします。
 お問い合わせ◎財団 舞台芸術振興課(中原)

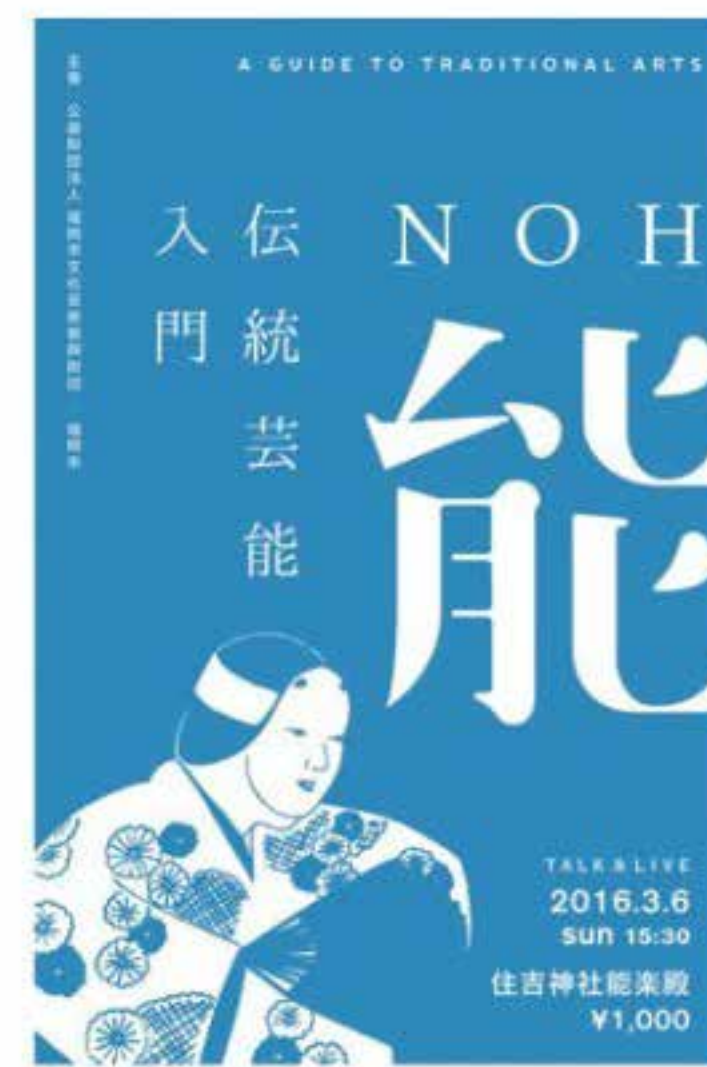


pick up goods

図録「アジアコレクション100」 販売します!

福岡アジア美術館の代表的な名品等を紹介した図録の最新版「アジアコレクション100」が完成。平成27年12月17日から販売します。福岡アジア美術館は、アジア近現代の美術作品を収集し展示する世界に唯一の美術館です。あなたのコレクションアイテムに1冊いかがですか。

販売価格◎2,376円(税込)
 販売場所◎福岡アジア美術館ミュージアムショップ・ロンホア
 Tel▷092-292-1008
 e-mail▷longhua.art.goods@icloud.com
 福岡市文化芸術振興財団(郵送販売のみ)
 ▷<http://www.ffac.or.jp/goods/>
 お問い合わせ◎財団 総務課(山本)
 Tel▷092-263-6264 e-mail▷plaza-b@ffac.or.jp



■ 伝統芸能入門 第3回 能

大好評伝統芸能イベントの第3回は、日本最古の演劇とされる「能」。室町時代に確立された能は、その後の日本文化に多大な影響を与えました。ひとときの夢を見るかのような、不思議な時間…司会の徳永玲子さんがその秘密に迫ります。みたことがない人のための、気軽な入門イベントです。

日程◎2016年3月6日(日)15:30
 場所◎住吉神社能楽殿(福岡市博多区住吉3-1-15)
 入場料◎1,000円

出演◎ゲスト▷鷹尾維教、白坂保行 司会▷徳永玲子
 チケット取扱い◎1月15日発売開始
 福岡市文化芸術振興財団 Tel▷092-263-6265(平日10:00-17:00)
 文化芸術情報館アートリエ(福岡アジア美術館7F)水曜休館
 お問い合わせ◎財団 舞台芸術振興課(原)
 Tel▷092-263-6265(平日10:00-17:00)
 e-mail▷ffac-02@ffac.or.jp

福岡市文化芸術振興財団
 平成28年度
 賛助会
「わの会」
 平成28年1月21日(木)より受付開始!

【種類・有効期間・会費】個人会員◎
 全期(平成28年4月1日~平成29年3月31日)2,000円
 半期(平成28年10月1日~平成29年3月31日)1,500円
 法人会員◎
 全期のみ(平成28年4月1日~平成29年3月31日)10,000円

【入会受付場所】文化芸術情報館アートリエ(福岡アジア美術館7階)
 福岡市博物館ミュージアムショップ
 福岡市美術館ブックショップ(平成28年8月31日まで)

【お問い合わせ】(公財)福岡市文化芸術振興財団 総務課
 Tel▷092-263-6257 e-mail▷wa@ffac.or.jp

FFAC レポート

日韓国交50周年の今年、海を隔てた二都市の人々による、今ここだけの特別なダンスが生まれました。
釜山と福岡、それぞれの公演の様子をレポートします。

Beyond the border

福岡-釜山 だ・댄・Da(ダ・デン・ダ)ダンスプロジェクト

「だ・댄・Da」は、「ダ・デン・ダ」と読み、韓国語で「やれば、できる!」という意味。

福岡と釜山の振付家や音楽家などアーティストと共につくったコミュニティダンスが上演されました。踊るのは福岡と釜山から集まった、年齢・職業・ダンス経験も様々な一般市民。9月から日韓それぞれで練習を開始し、10月初めの日韓合同ワークショップを経て、釜山と福岡での本番公演を迎えました。

釜山公演 ◎ 2015年10月31日(土) 釜山港国際旅客ターミナル


今年8月末に新しくできたばかりの釜山港国際旅客ターミナルに、太鼓のリズムが鳴り響きます。釜山に到着し、韓国メンバーと再会した興奮をそのままに、これから旅に出る人、旅から帰って来た人も巻き込んで熱いダンスを披露しました。



福岡公演 ◎ 2015年11月1日(日) 博多港国際ターミナル

前日の釜山公演を終えた一行は船に乗り込み、博多港へ。雨の降る中、総勢120人で踊るダンスは圧巻。踊るってこんなに楽しいんだ!と出演者の生き生きとした気持ちが観客にも伝わりました。



参加アーティスト◎	総合演出・振付 マニシア(福岡)	振付・ワークショップ進行	音楽監修	衣装
		緒方祐香(福岡) Yanchi.(福岡) カン・ヒジョン(釜山) カン・スピン(釜山)	ペ・ヨンジン(福岡)	佐々恭子(福岡)

舞台裏のお話

10月初めに福岡で行われた、出演者がほぼ全員参加した合同ワークショップでは日本語、韓国語、英語が飛び交いました。最初に漂っていた緊張感も、身体が温まると共に空気がほぐれていき、公演本番では出演者もスタッフも関係なく、より深くお互いの心を行き来させていたのを感じました。ダンス作品を作り、発表するために海を渡り、海を渡ってきた人達を受け入れる。そして言葉は通じなくとも一生懸命にコミュニケーションをとり、ひとつの作品のために全員が同じ方向を向いて全力を尽くすということが、こんなにも大きなエネルギーを持つのだということを改めて実感しました。これからも、ここで生まれた熱量を未来に繋げていきたいと思ひます。

事業コーディネーター 猪股 春香

学芸員

Curator
Chat



おしゃべりな

正路 佐知子

福岡市美術館

「改修するんだって？」

「結構長く閉まるんだよね」

そんな声を耳にするようになりました。はい、福岡市美術館は2016年9月1日から改修工事のため長期休館します。リニューアルオープンは2019年3月(予定)。本改修では前川國男建築の意匠を残しながら、作品をより安全に保管できる環境、作品がより魅力的に見える空間、ユーザビリティの向上等を目指しています。約40年間走り続けてきた当館も、やっとひと息、次の段階にきたのだと感慨深く、でも慣れ親しんできた今の姿もあと少しと思うとしんみりしてしまう今日この頃です。

節目のこの時だからこそ、回顧と再検証を!ということで、現在、近現代美術コレクション形成の歴史をたどる展覧会「TRACES | 轍^{わだち}」を2階の常設で開催中です(2016年8月31日まで)。所蔵品を収集年順に並べてみると、美術館構想期や開館後の転機に次ぐ転機、作品をめぐって人々が繰り広げてきたドラマも垣間見えてくる。当館の活動の歩みも振り返っちゃう、欲張りな展示です。もちろんそれだけでは終わりません。休館までの期間に行う通称「クロージングプロジェクト」の準備も水面下で進行中...ご期待ください!



ジョージ・シーガル《次の出発》1979年(部分) 展示室を出ると「NEXT DEPARTURE」の文字が目に入ります。

福岡アジア美術館

2015年12月17日(木)~2016年2月2日(火)

日韓近代美術家のまなざし『朝鮮』で描く

20世紀前半の日本統治時代から戦後1960年代までの朝鮮半島の美術を、韓国の作家と朝鮮半島に在住・旅行した日本人作家による絵画、工芸、彫刻、印刷物など約200点で総合的に紹介します。



李惟台(イ・ユテ)「和音」1944年 韓国国立現代美術館所蔵

招待券
10組
20名様

※締切1月5日(火)

福岡市博物館

2015年2月11日(木・祝)~2016年3月27日(日)

デュッセルドルフ美術館所蔵
アール・ヌーヴォーのガラス

ドイツの実業家、ゲルダ・ケプフ夫人がドイツ・デュッセルドルフ美術館に寄贈したアール・ヌーヴォー期のガラスコレクション約140点よりエミール・ガレ、ドーム兄弟をはじめとする巨匠たちの作品と技法について紹介する。



台付蓋付花器 ©Museum Kunstpalast, Düsseldorf, Foto: Studio Fuis-ARTOTHEK

招待券
5組
10名様

※締切2月1日(月)

福岡市美術館

2015年12月22日(火)~2016年2月21日(日)

マルモッタン・モネ美術館所蔵 モネ展

印象派の巨匠として、日本でも絶大な人気を誇るクロード・モネ(1840-1926)。マルモッタン・モネ美術館所蔵作品の中から、最大の名作といわれる《印象、日の出》をはじめとして、《サン・ラザール駅》《睡蓮》など約90点を公開します。



クロード・モネ《印象、日の出》1872年 油彩、カンヴァス
Musée Marmottan Monet, Paris © Christian Baraja 2016.2.4~2.21の期間限定出品

招待券
5組
10名様

※締切1月5日(火)

九州国立博物館

2016年1月1日(金・祝)~2月14日(日)

九州国立博物館開館10周年記念特別展
「黄金のアフガニスタン展
一守りぬかれたシルクロードの秘宝」

古くからシルクロードが通るアフガニスタンは、東西南北の文化が行き交う「文明の十字路」と呼ばれてきました。本展では、紀元前2200年頃から紀元後2世紀頃にかけて古代のアフガニスタン各地で栄えた文化を4つの遺跡から出土した名宝によってご紹介します。



襟飾1世紀第2四半期
ティリヤ・テベ

招待券
5組
10名様

※締切1月5日(火)

石橋美術館

2015年11月7日(土)-12月27日(日)

伝説の洋画家たち二科100年展

1914年の創設以来、常に先進的な作品を発表し、話題を提供してきた二科展は今年で100回という節目を迎えます。本展ではその100年の歴史を各時代を象徴する作家約100人の作品で振り返ります。



東郷青児《パラソルさせる女》第3回展(1916年、一般財団法人陽山美術館)

招待券
5組
10名様

※締切12月15日(火)

読者プレゼント

下記を明記の上、郵便ハガキ、ファックス、またはメールにてご応募ください。

- 1 ご希望のプレゼントの美術館・博物館名
- 2 住所・氏名・年齢・電話番号
- 3 waを手にした場所
- 4 良かったページ
- 5 興味が無かったページ
- 6 本誌以外で、アートに関する情報をどこから得ていますか
- 7 本誌や財団に期待する事ご意見など

応募先

福岡市文化芸術振興財団「wa」編集部
〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町 3-10 福岡県消防会館 6F
Fax: 092-263-6259 E-mail: pr-co@ffac.or.jp

伝説の 洋画家たち 二科100年展

2015 11 / 7^[土] → 12 / 27^[日]

あの巨匠も二科展からはじまった。

福岡から
久留米まで
電車で約30分!

※西鉄・特急、JR・快速
ご利用の場合



左から：安井曾太郎《薔薇》（石橋財団ブリタストン美術館）、東郷青児《超現実派の散歩》（東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館）、吉原治良《作品1》（大阪新美術館建設準備室）、岡本太郎《裂けた顔》（川崎市岡本太郎美術館）、小出楯重《帽子をかぶった自画像》（石橋財団ブリタストン美術館）、関根正二《姉弟》（福島県立美術館）

◆開館時間／10:00-17:00（入館は16:30まで） ◆休館日／月曜日

◆入館料／一般1,000円（800円）、シニア700円（500円）、大高生500円（400円）、中学生以下無料
 ＊（ ）内は15名以上の団体料金、シニアは65歳以上
 ＊前売券は、チケットぴあ、ローソンチケット取り扱い各店などで600円で販売（Pコード766-541、Lコード81979）
 〒839-0862 福岡県久留米市野中町1015 TEL 0942-39-1131 <http://www.ishibashi-museum.gr.jp>
 主催：石橋財団石橋美術館、久留米市、公益社団法人二科会、産経新聞社、西日本新聞社、TVQ九州放送、テレビ西日本
 後援：公益財団法人久留米文化振興会



石橋美術館
公益財団法人 石橋財団
ISHIBASHI MUSEUM OF ART
ISHIBASHI FOUNDATION